

## 2011年度環境会計

【集計範囲】(株)モスフードサービス(本社、事務所及び直営店) 【対象期間】2011年4月1日～2012年3月31日

【参考】環境省環境会計ガイドライン(2005年版)

2011年度は、政府や電力会社からの節電要請もあり、省エネ設備、特にLED照明の導入が加速しました。しかし昨年度の空調機器入替ほどコストは発生しませんでした。東日本大震災後の店舗負担を考慮して環境マネジメントシステムの運用を一部簡略化しました。それに伴い経費が削減されています、尚、東日本大震災の影響による環境保全コストの増減はほとんどありません。

### 環境保全コスト

単位:千円

分類	主な取組み内容	投資額	費用額	増減額(前年比較)		
				投資額	費用額	
① 事業エリア内コスト		26,909	102,157	▲ 6,460	9,410	
内訳	①-1 公害防止コスト	排水設備投資 下水道料金の支払	21,196	52,701	3,558	▲ 438
	①-2 地球環境保全コスト	空調機・LED照明設備投資 省電力機器保守	5,713	9,156	▲ 10,018	6,003
	①-3 資源循環コスト	事業系廃棄物のリサイクル及び廃棄処理	0	40,300	0	3,845
② 上・下流コスト	容器包装リサイクル協会費用	0	2,401	0	284	
③ 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用・教育・環境情報の開示	0	56,328	0	▲ 7,852	
④ 研究開発コスト	実験店舗減価償却費	0	2,285	0	▲ 798	
⑤ 社会活動コスト	コミュニケーション・社会貢献活動	0	2,677	0	▲ 2,384	
合計		26,909	165,848	▲ 6,460	▲ 1,340	

(株)モスフードサービス(単体)決算数値 (2011年度)

投資額の総額	978,472	千円
研究開発費の総額 <sup>※注1</sup>	46,588	千円

※注1:環境保全コストの「④研究開発コスト」は含んでおりません。

### 環境保全効果および経済効果

環境保全効果の分類	環境保全効果を表す指標					経済効果 (前年比較) 単位:千円
	項目	単位	2010年度	2011年度	削減量 (前年比較)	
①事業活動に投入する資源に関する効果	電気使用量[本社(大崎)] ※1 ◎	千kWh	430	372	58	1,025
	電気使用量[直営店] ※1 ◎	千kWh	8,827	7,956	871	15,338
	都市ガス使用量[本社(大崎)] ※2 ◎	千m <sup>3</sup>	2	2	0	16
	都市ガス使用量[直営店] ※2 ◎	千m <sup>3</sup>	255	267	▲ 12	▲ 1,416
	LPガス使用量[直営店] ※2 ◎	千m <sup>3</sup>	53	40	13	2,498
	水道使用量[本社(大崎)]	千m <sup>3</sup>	1	1	▲ 0	▲ 12
	水道使用量[直営店]	千m <sup>3</sup>	88	94	▲ 6	▲ 2,593
	空調エネルギー(本社) ◎	GJ	2,063	1,938	125	▲ 251
	コピー用紙使用量[本社・事務所]	千枚	1,825	1,844	▲ 19	▲ 30
	CO2排出量(◎を換算)	t-CO <sub>2</sub>	4,720	4,185	535	—
②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	事業系一般廃棄物[本社・事務所]	t	7	6	1	561
	倉庫廃棄物処分	t	158	168	▲ 10	▲ 273
経済効果合計						14,862

#### <CO2換算係数>

改正省エネ法の換算係数を元に作成しています。

※1 電気:(2010年度):電力各社発表の2009年度、調整前の係数 (2011年度):電力各社発表の2010年度、調整前の係数

※2 ガス:都市ガス(2010・2011年度)2.23kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>

:LPガス(2010・2011年度)3.00kg-CO<sub>2</sub>/kg \*重量換算0.502千m<sup>3</sup>/t \*単位発熱量(2010・2011年度)50.8MJ/kg

環境会計作成にあたって

- ・削減量、経済効果ともに▲は増加量、費用増加額を表しています。
- ・複合コストの計上は簡便な基準による按分集計を採用しています。